

## 災害から組合員とお客様の命を守り、迅速な対応能力と公共交通機関であるJR東日本としての「使命」「社会的責任」を果たすための対策・改善を求める申し入れを行う！

9月30日、中心気圧970ヘクトパスカル、最大風速44メートルと非常に強い勢力の台風24号が深夜未明、関東地方を通過しました。JR東日本は、12時15分に首都圏全路線の運行を午後8時以降取りやめることをプレス発表し、大規模な計画運休が初めて行われました。

国土交通省は、9月30日の各鉄道事業者が行った計画運休に対して「今回の台風では風速や雨量などが運転を規制する基準値を上回ることが事前に予想された。また台風接近時の風速の大きさ等に鑑みれば、今回の鉄道事業者による計画運休は適切であったと考えている」と述べられています。

しかし、多くの職場では計画運休の状況を対策本部からではなく、マスコミのプレス発表やお客さまより情報を得るなど、対応する現場では問題が発生しており、ご利用いただくお客さまへの情報発信体制も問題となりました。

さらに翌日の10月1日、初電担当の乗務員は出区点検の準備をしていると4時過ぎに突如、乗務員無線で「初電を回送扱いにし、添乗者を乗せて運転をする。車掌はドア扱いを行わないように」と通告されました。対策本部から各職場へ初電から回送扱いで運転される旨の連絡はされていません。何も聞いていない現場では、添乗者の手配や乗務員操配の混乱が生じ、初電を回送扱いで運転する乗務員は添乗者も手配もされない状態で運転を行い「台風による飛来物や倒木など恐怖の中、運転を行った」と報告を受けています。現場では「迅速な対応能力」や「必要な要員配置」が全くされておらず、さらには利用者への情報発信体制の遅れにより、駅には情報を知らないお客さまがホームや駅周辺に溢れかえり、この混乱は、通勤時間帯にまで影響し、新宿駅をはじめJR在来線の32駅で入場制限が行われる惨事となりました。現場の組合員からは、10月1日の初電を動かすとの対策本部の判断について、「あれだけ強い台風が通過していくにも関わらず対策ができていないのでは」と疑問を抱いています。

JR西日本は「自然の猛威に対してどう手を打ち、被害を最小限に抑えるか。そうしたことを常に考えて今後とも行動していきたいと思っている。広くお客さまへの告知などを通じて計画運休への理解も得ていく。そうしたことで、広くお客さまの身の安全を守っていく。そうしたことが定着することが大事」とコメントをしています。

今後、訪日外国人の増加、2020年にはオリンピック・パラリンピックも迎える中、災害対策も同時に進めなければなりません。どのように「災害から組合員、お客様の命を守る」のか、経営判断を示すべきです。そして、現場での対応能力向上と公共交通機関であるJR東日本の「使命」と「社会的責任」を果たすための対策・改善を労使共通の課題とし、下記の通り申し入れますので、具体的な回答と真摯な議論を要請します。

### 記

1. 台風24号において9月30日に計画運休とした根拠を明らかにすること。
2. 台風24号の対応として9月30日に対策本部からの計画運休の連絡が各現場へ遅れた理由と、また今後の対策を具体的に明らかにすること。
3. 台風24号通過後の10月1日の初電より各線区において通常ダイヤ運行を行うことを判断するに至った根拠と、社員・お客さまへ周知の経過を明らかにすること。
4. 災害時などの対応及び、安全確認は各系統で行えるよう万全な要員配置を行うこと。
5. 列車での諸設備の安全確認や、線路及び架線点検は回送列車で行うこと。又、その際には適正な添乗者を配置すること。
6. 今事象についての経緯と対策については、全職場で説明すると共に、意見交換会を行い問題点の検証を行うこと。